

## 嘉手納基地旧海軍駐機場使用に対する抗議決議

去る6月21日、米海軍のP-8A対潜哨戒機が米軍嘉手納基地の旧海軍駐機場でエンジンをかけた状態で使用し、自走したとの報道がなされた。

同駐機場では、4日にも、米海軍のP-3C対潜哨戒機がエンジンをかけた状態で駐機し、嘉手納町や沖縄防衛局の抗議を受け、米側は、エンジン稼働で騒音を出し、日米で合意した騒音軽減イニシアチブに反する旧海軍駐機場を使用したことに「部隊の関係者との間に齟齬があった」と釈明し、謝罪したばかりである。

旧海軍駐機場は、嘉手納町の住宅地に近く騒音や悪臭が問題となっていたため、苦渋の決断として沖縄市側への基地内移転が1996年のSACO最終報告で合意された。これまでもKC-135空中給油機やU-2偵察機の使用が確認されるなど明らかにSACO合意違反であり、何ら考慮することのない米軍に嘉手納基地周辺住民は強く反発している。

さらに、嘉手納基地においては、これまでも基地の負担軽減を望む周辺住民の思いに反し、外来機の飛来や米軍機の暫定配備が繰り返されており、日米両政府間の約束を反故にし、駐機場移転を受け入れた本市の決断を無意味にする一連の米軍の行為は断じて許されるものではない。

よって沖縄市議会は、市民の生命・財産・人権及び平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地旧海軍駐機場使用に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

### 記

1. SACO合意を遵守し、その合意に反する旧海軍駐機場の使用は絶対行わないこと。

以上決議する。

平成30年7月6日

沖 縄 市 議 会

宛 先

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米国総領事 在沖米海軍艦隊活動司令部司令官  
嘉手納基地第18航空団司令官